資料２

和歌山大学岸和田サテライト地域連携事業報告書
（2021 年度）

目指す姿Ⅰ　高等教育機能を発揮している

１ 高等教育事業

【１－１】　大学授業の開講

① 和歌山大学岸和田サテライトでは、本学が有する高等教育機能を活用して、地域課題の探求および社会人の学び直しやスキルアップなど、多様な学習ニーズに即した学部開放授業と大学院経済学研究科授業を開講してきました。

② 2021 年度においては、緊急事態宣言の発出により対面授業の主な開催場所である南海浪切ホールが 4 月 25 日から 6 月 20 日まで休館となりました。また、8 月 2 日から 9 月 30 日には再度の緊急事態宣言の発出や、複数回にわたるまん延防止等重点措置の発出に伴い、オンライン等の対策を講じました。

【１-１-１】高度職業人養成型授業の開講

＜大学院経済学研究科授業＞

（前期）

科目名	担当教員	受講者数		
		院生	科目等履修生	合計
雇用と労働	経済学部准教授 岡田真理子	8	3	11
商法	経済学部准教授 清弘正子	7	1	8
経済立地論	経済学部准教授 藤田和史	18	4	22
行政法	経済学部教授 森口佳樹	8	2	10
	合計	41	10	51

（後期）

科目名	担当教員	受講者数		
		院生	科目等履修生	合計
租税法実務演習	近畿税理士会	7	2	9
財政学	経済学部准教授 齊藤仁	13	1	14
監査論	経済学部准教授 藤原靖也	4	1	5
政策過程論	経済学部准教授 藤木剛康	6	2	8
	合計	30	6	36

① 経済学研究科の 2021 年度からの方針により、南海浪切ホールでの対面授業の開講に加えて、対面授業のオンライン同時配信を実施しました。

② 4 月 10 日から対面授業を開講しましたが、南海浪切ホールの臨時休館および本学のオンライン授業への移行方針に伴い、4 月 24 日から 5 月 29 日までの授業は全てオンライン授業となりました。

【１-１-２】地域課題探求型授業の開講
【１-１-３】文化・教養型授業の開講

＜学部開放授業＞

（前期）

科目名	担当教員	受講者数		
		学部生	学部開放受講生	合計
【地域課題探求型】 地域観光戦略論	経済学部准教授 藤田和史　他 4 名	11	18	29
【文化・教養型】 IT 社会とデータサイエンス	データ・インテリジェンス教育研究部門 准教授 西村竜一 他 3 名	2	5	7
	合計	13	23	36

（後期）

科目名	担当教員	受講者数		
		学部生	学部開放受講生	合計
【地域課題探求型】 学童期の子どもの育ちと現代社会	紀伊半島価値共創基幹教授　村田和子 他 4 名	11	4	15
【文化・教養型】 災害後の生活再建とまちの復興	システム工学部准教授 平田隆行　他 2 名	10	8	18
	合計	21	12	33

① 各科目の成果

a) 「地域観光戦略論」は、新たな視点による観光戦略の計画・立案・情報発信を目的とし、複数の担当教員によるオムニバス方式で開講しました。地域観光の推進母体である KIX 泉州ツーリズムビューローやバリュー・リノベーションズ・さの等からゲストスピーカーを迎え、地域課題の具体的展開について学びました。岸和田市職員 2 名が受講しました。

b) 「IT 社会とデータサイエンス」は、世界的な規模であらゆる産業の発展に大きく寄与すると考えられている「人工知能（AI)」や「ビッグデータ」の理解に必要な、データサイエンスの基礎を習得する目的で開講されました。システム工学部の複数の教員が担当しました。受講生からは「数年ぶりに大学の授業を受講できて良かった。」「講義中心ではなく実際に手を動かしてプログラムするといった演習形式の内容で良かった。」等の感想がありました。

c) 「学童期の子どもの育ちと現代社会」は、小学生に焦点をあて、「家庭・学校・地域における教育の営み」をテーマに開講しました。授業はオムニバス方式で、各回を、発達支援、学力保障、子どもの貧困、SNS 等を専門とする教員が担当しました。さらに、岸和田市教育委員会や社会福祉協議会等からゲストスピーカーを迎え、地域課題についての理解を深めました。最終回では、参加者が作成したレポートを発表し、話し合い、気づきを共有しました。

d) 「災害後の生活再建とまちの復興」は、「災害復興」の観点から、被災地（宮城・熊本・兵庫）の研究者をゲストスピーカーに迎えて、実践的授業を行いました。1 月 16 日には、震災 27 年を前日に控えた神戸市長田区周辺でのフィールドワークを実施しました。一部の受講者は和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター主催の防災士養成講座も受講し、防災士の資格を取得しました。

【１-２】学習環境の充実

【１-２-１】学習環境の充実

① 受講者数に応じた感染症対策

a) 感染動向および大阪府や南海浪切ホールの室内定員の削減基準に基づき、座席の間隔が十分にとれる広めの教室を確保しました。

② ハイブリッド型授業の実施

a) オンラインでの受講生に対し、操作方法の説明相談や、定期的な情報共有を行いました。

b) コロナ感染予防の観点から、府県域をまたぐ移動を伴うなど、会場参加が難しいゲストスピーカーや受講生に配慮して、ハイブリッド型授業を実施しました。

③ 南海浪切ホールでの学習情報等の提供

南海浪切ホール１階エントランスロビー、２階岸和田サテライト事務室前において、和歌山大学および岸和田市に関する以下の学習情報等を発信・提供しました。

a) 和歌山大学に関する学習情報等
- 入試情報（大学案内、入試広報、アドミッションポリシー）
- 募集要項（一般入試・学校推薦・学校スポーツ推薦入試・社会人特別入試・帰国子女選抜など）
- 教員免許状更新講習の募集冊子
- 岸和田サテライトの授業科目、わだい浪切サロンの開催情報など

b) 岸和田市に関する学習情報等
岸和田市市民活動サポートセンター、岸和田商工会議所、岸和田ビジネスサポートセンター、市立消費生活センター、岸和田市国際親善協会、市立きしわだ自然資料館の会報やイベント情報など

目指す姿Ⅱ：市民の生涯学習活動をサポートしている

２ 生涯学習機会の提供

【２-１】わだい浪切サロンの充実

【２-１-１】継続実施と新たな展開

① 開催回数と方式

2021 年度は例年通り、計 10 回開催しました。

2020 年 10 月からのオンライン方式で実施してきましたが、2022 年 3 月から対面とオンラインを併用して開催しました。

② 年間プログラム

a) 和歌山大学の 4 学部や各センターを中心に、社会情勢の変化や地域ニーズにマッチしたバランスのとれたテーマと講師を選定しました。

b) 本学教員が 8 回、連携先の他大学教員が 2 回登壇しました。

c) 2 月、8 月を除く毎月第 3 水曜日の 19 時から 20 時 30 分に定例開催しました。

№.	月日	テーマ	講師	参加者数
125	4/21	人とロボットがタッグを組んで競い合う！？ “サイバスロンでの挑戦”	システム工学部 教授　中嶋秀朗	30
126	5/19	SDGs（持続可能な開発目標）に向けて 私たちが出来ること	教育学部教職大学院教授　岡崎 裕	47
127	6/16	災害から、命、生活、地域を守るために ～これまでの復旧・復興から学ぶ～	災害科学・レジリエンス共創センター　特任准教授 宮定　章	65
128	7/21	国際化時代の日本語教育・日本語支援 －大学と地域の連携－	国際連携部門長 教授　長友文子	48
129	9/15	身近な生物多様性と絶滅危惧種の保全	大阪府立大学教授 平井規央	71
130	10/20	地域と大学生をつなぐ「ワダイ」のオープンラボ －和歌山大学協働教育センター（クリエ）の取り組み－	データ・インテリジェンス教育研究部門 講師 西村竜一	30
131	11/17	私たちの健康と幸福を育むエリアマネジメント －With/After COVID19 時代の新たな地域活動－	経済学部講師 上野美咲	41
132	12/15	音を楽しむ、音でつながる －学校で「音楽する」ことの可能性－	教育学部准教授 上野智子	40
133	1/19	マスターズスポーツ・プロモーションの期待と可能性	教育学部准教授 彦次 佳	21
134	3/16	K ミュージックから韓国社会を読み解く －歌謡が映し出す近現代史と韓国の今－	桃山学院大学 准教授　新保朝子	36

注 1）第 125 回～第 133 回の参加者は、オンラインのみ。

注 2）第 134 回の参加者の内訳は、オンライン 26 名、対面 10 名。

③　全体の傾向

a)　平均参加者数

・　過去、記録の残っている 123 回分の浪切サロンへの参加者数を平均すると、一回当たり 47.0 人となっています。全 5 回がすべてオンラインで行われた 2020 年度の平均参加者数は 49.4 人なので、その数字を上回っています。このことから、オンラインでもやり方次第で、参加者を十分呼び込めたことがわかります。2021 年度は、全 10 回のうち、9 回がオンライン、1 回がハイブリッドで実施されました。2021 年度の 1 回当たりの平均参加者数は 42.9 人で、123 回

分の平均の 47.0 人を下回っています。　これをもう少し詳しく見てみると、4 月から 9 月までの前半 5 回は平均 52.5 人と、参加者は 50 人を超えていますが、10 月から 3 月の後半 5 回は平均 33.6 人と、大きく落ち込んでいます。平均参加者数が比較的多かった、2020 年度、2021 年度前半も、少なかった 2021 年度後半も、日時（第 3 水曜日 19：00～20：30）、開催方法（第 134 回のハイブリッド開催を除いて、すべてオンライン開催）などの条件は基本的には変わりません。関係者間では、平均参加者数を改善するために、テーマ選定やタイトル設定、広報開始時期、広報手段などを含めた広報戦略を見直していくことを確認しました。

b) アンケート回答率

・ 参加者のアンケート回答率は、2020 年度（63.6%）とほぼ同じ、63.5%から回答を得ました。

c) 年齢層

・ 「10 代～50 代」の参加率は 53.7%で、2019 年度の 43.8%、2020 年度の 51.2%を上回りました。
・ 全参加者の職業別の内訳では、会社員が 30.1%、公務員が 20.4%、学生 2.4%、自営業が 10.7%で、会社員と公務員の比率が過半を占めました。

d) 居住地域

・ 2019 年度には、全参加者の 87%が、大阪府内の忠岡町以南から参加していましたが、2020 年度は 57%、2021 年度は 55%とその割合が減少し、代わりに他地域からの参加者が増加しました。上記エリアを除く近畿圏（大阪市、堺市、泉大津市、和泉市、奈良県、兵庫県、和歌山県など）からの参加は 35%、その他の区域（東京都、香川県、鹿児島県、大韓民国など）は 10%でした。オンライン実施が中心となったことにより、参加者の居住地域が多様化したと考えられます。

e) 満足度

・ 「大変良かった・良かった」と答えた人の割合は、2020 年度と変わらず 87.4%で、2019 年度の 80%を上回りました。
・ オンライン方式での開催に配慮して、当日午前中にはオンライン受講方法の再案内とともに、講義資料を事前に配信しました。
・ 講師には、申込者の属性情報（年齢層・居住地域・事前質問等）を共有し、多様な参加者に配慮した運営を心掛けました。

④ 本学教員による話題提供

a) 【第 125 回】は、人と機械の協働の可能性に着目し、Cybathlon（障害のあるアスリートによる国際競技大会）の電動車いす部門で連続入賞した和歌山大学チーム（RT-

Movers）の取り組みが紹介されました。参加者からは「ロボット工学により身体の不自由な人が普通の暮らしができる可能性がある。」、「産学連携の思いや課題が良く分かり応援したくなった。」等の感想が寄せられました。

b) 【第 126 回】は、2030 年に期限を迎える SDGs（持続可能な開発目標）が採択された経緯や概要が紹介されました。そして、「自分たちの生活の中で、SDGs をどのように捉え、どう実践していくのか」が、問いかけられました。参加者からは、「SDGs の体系や歴史を初めて聞き大変参考になった。教育関係の仕事を通じて子どもたちと何ができるのか、どうすれば行動すればいいのか考え実践していきたい。」等の感想がありました。

c) 【第 127 回】は、災害後の復旧・復興時の被災者支援制度について、海外の事例を含めて紹介されました。参加者からは「災害発生時の対応から生活再建までの事例を分かりやすくお話いただき自分事として捉えなおすことができた。」、「災害時のハード・ソフト面、ボランティア、財政面などの関心事について説明いただいた。他国の実情を更に知りたいので次回もお願いしたい。」等の意見がありました。

d) 【第 128 回】は、「留学生と日本語教育の現状」、「外国で育って日本で学ぶ子どもたち」などに焦点をあて、地域と大学の連携による支援活動について紹介されました。この講演をきっかけに岸和田市国際親善協会と連携が深まりました。日本語・日本文化の教育に携わる方や日本語能力検定受験者等の参加があり、「これからは外国人と共存共栄の時代であると実感した。」、「外国人が住みやすい社会は私たちも住みやすい場所だと再認識した。」等の感想がありました。

e) 【第 130 回】は、ソーラーカーやゲーム開発などの学生プロジェクトを通じて、地域との協働や人材育成に取り組むクリエ（和歌山大学協働教育センター）の研究現場から、卒業生 2 名のトークを交えて中継しました。参加者からは「自由な雰囲気で自主性や行動力、創造性が発揮できる空間はとても魅力的だ。」等の感想がありました。

f) 【第 131 回】は、マッセ OSAKA の 2021 年度「住み続けたいまちづくり研究会」で指導助言を行った講師から、有限な地域資源を活用した「エリアマネジメント」の手法や市民満足度向上策の紹介がありました。参加者からは「アフターコロナの地域活動の方向性が示され大変参考になった。」、「地域の祭りが幸福度に関係するならば、岸和田市でも人口増加のための地域づくりができると感じた。」等の意見がありました。

g) 【第 132 回】は、学校教育を通じた人間と音楽の関係や無限の可能性について深く掘り下げました。参加者からは「普段は知りえない支援学校での取り組みを視聴させていただいた。」、「音楽療法の対等な関係性は子どもたちとの関わり方に通じる

ものがあり、意識していきたい。」、「地域で承継される音楽を通して地域の人々と連携できることを教えていただいた。」等の感想が寄せられました。

h) 【第 133 回】は、第 23 回秩父宮記念スポーツ医・科学賞の奨励賞を受賞した講師から、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の動向も含めたスポーツの本質的な意義や効果についての提言がありました。参加者からは「講師の熱量を感じ元気になれた。」、「内容が面白く、心の奥底に眠る、大人げなく、子どものようにスポーツを楽しむ気持ちに気づかせていただいた。」等の声が届きました。

⑤ 大阪府立大学との連携事業

【第 129 回】は、大阪府立大学との連携協定に基づき、生命環境科学研究科教授の平井規央氏による「身近な生物多様性と絶滅危惧種の保全」の講演を実施しました。研究室からの実際に飼育されている昆虫などの映像を視聴した参加者からは「地域の生物多様性と絶滅の危機に瀕する動植物の現状を知る契機となった。」、「様々な分類群についてのお話を伺うことができ、大変興味深かった。」、「絶滅危惧種の保全のための試みについて具体的に説明いただき大変参考になった。」等の感想が寄せられました。

⑥ 桃山学院大学との連携開催

【第 134 回】は、2019 年に岸和田市を含む南大阪 4 市が「４つの約束」を取り交わしている桃山学院大学との連携開催を企画しました。

「K ミュージックから韓国社会を読み解く - 歌謡が映し出す近現代史と韓国の今 - 」というテーマで、国際教養学部准教授の新保朝子氏による講演を実施しました。

世界的に注目度の高い K ミュージックについて、各時代の音楽映像も交えながら、民族の悲しみと誇り、抑圧への抵抗、世界のコンテンツの 3 つの視点からお話しいただきました。参加者からは、「耳新しい内容で、自分が時代に取り残されそうに思うことの連続でした。とても興味深かったです。」、「最近の韓国事情を理解できるステップになりました。」等の感想が寄せられました。

目指す姿Ⅲ：地域課題の発見と解決・大学の知的資源と住民の交流をサポートしている

３ 地域研究事業

【３-１】地域研究事業

① 岸和田市教育委員会との教育課題の共有

岸和田市教育委員会の指導主事と学校教育における現状と課題について意見交換を行い、2022 年度の学部開放授業の開講科目に、岸和田市の教育課題を反映することができました。

② 岸和田市国際親善協会との連携

a) 「やさしい日本語ハンドブック」の地域展開を契機に、多文化共生社会の実現を目的として、岸和田市内における日本語教育の現状、市民ボランティアの養成取り組み、「外国人市民のための防災ハンドブック」等の情報交換を行いました。和歌山大学国際連携部門との連携により、第 128 回わだい浪切サロンを計画するとともに、コロナ禍での市民向け英会話講師の募集不足を支援するために、和歌山大学留学生による英会話講師の可能性について検討しました。

b) 岸和田市国際親善協会の会報誌「にゅ～とぴあ岸和田」に、第 128 回わだい浪切サロン（2021 年 7 月 21 日）の開催概要や、English Open Café（2021 年 11 月 26 日）の感想が掲載されました。

③ 岸和田高校との主権者教育プログラムの実施

a) 2022 年 1 月 22 日に、大阪府立岸和田高校（家庭ゼミ）の「探求学習に伴う学習支援・交流会」をオンラインで開催し、高校生 6 名が参加しました。

b) 岸和田高校の文理課題研究の 4 テーマに対して、公務員（岸和田市職員）、大学教員、企業人、大学生という幅広い人材が学習支援者となり、様々な観点からのアドバイスや地域課題について高校生と意見交換を行いました。

４ 各種連携

【４-１】各種連携

【４-１-１】学校教育分野の連携促進

① 主権者教育プログラムの検討

大阪府立岸和田高校の文理課題研究（家庭ゼミ）に対する学習支援・交流会を実施しました。

② 市立きしわだ自然資料館の活動紹介

オンライン開催によるわだい浪切サロンの参加者層の広がりを好機として、第 129 回わだい浪切サロン「身近な生物多様性と絶滅危惧種の保全」の参加者 63 名に対して、市立きしわだ自然資料館の紹介を行いました。

【４-１-２】生涯学習分野・まちづくり分野の連携促進

① 市都市計画課との連携

岸和田市景観計画に基づく市民参加型の「こころに残る景観資源発掘プロジェクト」とエリアマネジメントとの関わりを周知するために、第 131 回わだい浪切サロンにおいて、プロジェクトの概要や景観資源の分類、指定景観へのアクセス方法、新規の応募方法、岸和田市主催の古民家利活用セミナーについての情報提供を行いました。

② 市スポーツ振興課との連携

第 133 回わだい浪切サロンでの講演の冒頭において、2027 年度までの「全世代の体力向上」を取り組みテーマとした岸和田市スポーツ推進計画と、BMX 競技が予定されているワールドマスターズゲームズ 2021 関西の位置付けについて、スポーツ振興課職員の方に紹介いただきました。

③ 岸和田商工会議所との連携

「きしわだ所報」に経済学部教員による以下の連載を実施し、市内の事業者に対する情報提供を継続的に行いました。

期間	テーマ	執筆者
（2020 年 11 月～）2021 年 4 月	財政の役割について考える	経済学部 准教授 齊藤　仁
2021 年 5 月～10 月	会計士という世界を歩く	経済学部 准教授 三光寺由実子
2021 年 11 月～（2022 年 4 月）	変わるアメリカと世界 ～トランプからバイデン～	経済学部 准教授 藤木剛康

④ 市立図書館との連携

2021 年度も、幅広い市民の皆さまの生涯学習支援を促進するために、前期および後期の学部開放授業の募集案内や、開講科目に関連した参考文献についての企画展示を市立図書館内で連携実施するとともに、相互の事業情報をホームページに掲載しました。

⑤ 国民文化祭「おもしろミライまつり 2021」の普及案内

和歌山大学協働教育センターの教員が要職を務める青少年のための科学と環境の祭典「おもしろミライまつり 2021」の案内を、岸和田市内の小学校や生涯学習施設に掲示しました。本年度は特に、和歌山県で初開催の国民文化祭に関連したサイエンスイベントが多数開催され、自治体・企業・大学生・高校生を主体としたユニークなオンライン（ライブ）配信が好評を博しました。

【４-１-３】連携ひろば「ワダイ×キシワダ」の運営

① 学部開放授業やわだい浪切サロンの広報面談を通じて、「ワダイ×キシワダ」としての今後の連携のあり方についての検討を継続しました。

【４-２】岸和田サテライト友の会への支援

① 友の会活動の紹介

a) 2017 年 2 月に開催した「和歌山大学岸和田サテライト 10 周年フォーラム」でのサイバスロンのデモンストレーションをきっかけに、岸和田サテライト友の会が和歌山大学のサイバスロンチーム（RT-Movers）に続けてきた支援活動について、第 125 回わだい浪切サロンの中で紹介しました。

b) 岸和田市民フェスティバル等において継続してきた地域防災に対する模範的な取り組みを、第 127 回わだい浪切サロン「災害から、命、生活、地域を守るために～これまでの復旧・復興から学ぶ」において紹介しました。

② 幹事会の開催支援

2021 年 6 月・9 月・12 月の友の会幹事会に地域連携コーディネーターが出席し、オンライン開催の支援とともにサテライト事業に関する情報共有を行いました。

③ 防災士養成講座の受講支援

災害科学・レジリエンス共創センター主催の「防災士養成講座」の情報提供を行い、友の会関係者の受講を支援しました。

目指す姿Ⅳ：持続可能な連携組織となっている

５　組織体制・財政

【５-１】戦略的な組織体制

【５-1-１】地域連携推進協議会の充実

① 連携事業の進行管理

- 地域連携推進協議会は、5 月に実施しました。
- 企画運営委員会は、4 月・8 月・11 月・3 月の計 4 回実施しました。
- 調整会議は、4 月から 2 月までの計 11 回実施しました。

【５-1-２】大学の連携体制の強化

① 紀伊半島価値共創基幹内での情報共有

- 紀伊半島価値共創基幹の定例会議に出席し、価値共創オフィスや各センター・サテライトとの間で定期の情報共有を行いました。
- 災害科学・レジリエンス共創センターとの間で、2021 年度および 2022 年度の学部開放授業の開講テーマや授業運営の方法について協議しました。

【５-２】事務局機能の充実

① 地域に密着した活動の推進

・　岸和田市の関係機関によるイベントに参加したり、セミナーを受講したりすることで、タイムリーな地域課題情報を入手しました。

② 多様な主体の参画によるネットワーク形成

・　大阪府立大学および桃山学院大学との連携事業の実施を通じて、大学間連携の効果的な方法について検討しました。

③ サテライトオフィスへの各種問い合わせ

・　外部からの個別相談や本学教員の紹介依頼のほか、岸和田サテライトに配架する募集要項や教員免許状更新講習に関する問い合わせ等に対応しました。

各種問い合わせ件数	50 件

（注）関係機関との定例連絡、友の会との情報共有、受講生との事務連絡は含みません。

【５-３】財政運営

① 外部資金獲得に関する情報共有

・　2022 年度以降、民間の財団等を含めた外部資金獲得の可能性について、検討していく予定です。

【５-４】効果的な広報活動

① インターネットによる情報発信

・　紀伊半島価値共創基幹と連動したサテライトホームページの定期更新を行いました。Facebook、メールマガジン等を有効活用し、タイムリーな情報発信を継続しました。

② 商工会議所会員への定期情報発信

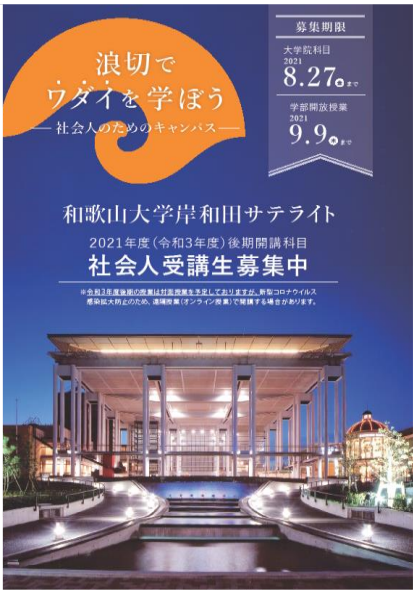
・　「きしわだ所報」に経済学部教員による連載を行い、市内事業者に対する情報提供を継続しました。

③ 南海浪切ホールでの広報活動

・　情報コーナーへのパンフレット等の配架を行うとともに、浪切友の会会報「ナミトモ」への広告掲載を継続しました。

④ 受講生募集の広報強化

・　募集冊子（サブツール）に QR コードを載せて、募集に関する情報により簡単にアクセスできるように改良するとともに、ホームページやメールマガジン等での募集広報を行いました。



【６-１】事業立地

① オフィス環境の充実と利便性への取り組み

・　事業立地を含めたサテライト事業のニーズ調査について検討しました。

以　上